

| | | | | | | |
|--|---------------------|---------|---|--------|---|--------|
| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学 | 【学年】 | 3 |
| 高野 真一 ¹⁾ 、岡本 宏二 ²⁾ | | 高野 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)病院7年勤務 2)病院20年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 前期・木 3 | 【授業形態・単位】 | 講義 3 |
| 【授業の概要】 | | | | | 【受講して得られる力】 | |
| 中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。 | | | | | 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験 | |
| 【学習目標(到達目標)】 | | | | | | |
| ①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | 科目ガイダンス 高野 | | 講義の進め方、事前学習の方法について説明する。 脳の解剖、中枢神経と末梢神経の機能について復習。 | | | |
| 2 | 治療学の基礎1 運動学習 高野 | | 人が学習する基本理論と実践方法について理解する。 Keyword: 運動制御理論, 5つの理論, 運動学習三相説, 課題提示とフィードバック | | | |
| 3 | 治療学の基礎2 行動変容 高野 | | 日常生活上での麻痺手の使用改善に対する意義を理解する。 Keyword: 課題指向形アプローチ, CI療法, 運動学習, 神経可塑性, 目標設定 | | | |
| 4 | 治療学の基礎3 知覚再教育 高野 | | 感覚、知覚の障害に対する治療理論を理解する。 Keyword: 知覚の役割, 感覚回復, 動作障害の改善 | | | |
| 5 | 治療学の基礎4 高野 | | 抑制と促通に力点をおいた治療の基本理論を理解する。 Keyword: 量的・質的障害, 原始的反射の抑制, 正常機能の誘発・促通 | | | |
| 6 | 治療学の基礎5 生活行為 高野 | | 生活行為に結びつける基本的な考え方を理解する。 Keyword: 生活行為向上マネジメント | | | |
| 7 | 治療学演習1 岡本 | | 実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。 | | | |
| 8 | 治療学演習2 岡本 | | 実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。 | | | |
| 9 | 治療学演習3 岡本 | | 実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。 | | | |
| 10 | 治療学演習4 岡本 | | 実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。 | | | |
| 11 | 治療学各論1 脳卒中 高野 | | 疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム | | | |
| 12 | 治療学各論2 脊髄損傷 高野 | | 疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム | | | |
| 13 | 治療学各論3 神経変性疾患 高野 | | 疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム | | | |
| 14 | 治療学各論4 神経免疫疾患 高野 | | 疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム | | | |
| 15 | 治療学のまとめ 高野 | | 事例を通して治療場面の推論の立て方を学ぶ。 グループワークテーマ: クリニカルリーズニング, EBOT, 治療理論 | | | |
| 期末試験 | 高野 | | 評価方法 | 筆記試験 | 80% | |
| | | | | 受講態度 | 20% | |
| 【教科書】脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)、 | | | | | | |
| 【参考書】業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第3版(文光堂) | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布。予習課題も提示する。 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | | |
| | | | | 教員室にて | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学 | 【学年】 | 3 |
|--|------------------------|---------|---|---------|--|--------|
| 高野 真一 | 病院 7年勤務 | 高野 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| | | | 【曜日・コマ】 | 後期・月金 1 | 【授業形態・単位】 | 講義 3 |
| 【授業の概要】 中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。 | | | | | 【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | 治療学の基礎6 ADLへの支援 高野 | | ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。 Keyword: 運動療法, 基本的能力訓練, 応用的能力訓練 | | | |
| 2 | 治療学の基礎7 ADLへの支援 高野 | | ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。 Keyword: 運動療法, 基本的能力訓練, 応用的能力訓練 | | | |
| 3 | 治療学の基礎8 作業の活用 高野 | | 『作業』に通じた諸症状へのアプローチ, アクティビティの利用について理解する。 Keyword: 作業活動, 作業分析 | | | |
| 4 | 治療学の基礎9 作業の活用 高野 | | 『作業』に通じた諸症状へのアプローチ, アクティビティの利用について理解する。 Keyword: 作業活動, 作業分析 | | | |
| 5 | 治療学各論5 ポバースコンセプト 高野 | | ポバースアプローチについて理解する。 Keyword: 姿勢コントロールメカニズム, 姿勢緊張, キー・ポイント・オブ・コントロール | | | |
| 6 | 治療学各論6 ポバースコンセプト 高野 | | 演習 事例を通して理論について理解を深める。 | | | |
| 7 | 治療学各論7 認知運動療法 高野 | | 認知運動療法について理解する。 Keyword: 情報の需要表面, 5つの視点, 思考循環, 認知過程, 組み立て | | | |
| 8 | 治療学各論8 認知運動療法 高野 | | 演習 事例を通して理論について理解を深める。 | | | |
| 9 | 治療学各論9 促通反復療法 高野 | | 促通反復療法について理解する。 Keyword: 神経路の興奮水準, 4つの視点, 原則, | | | |
| 10 | 治療学各論10 促通反復療法 高野 | | 演習 事例を通して理論について理解を深める。 | | | |
| 11 | 治療学各論11 CI療法 高野 | | CI療法について理解する。 Keyword: 学習性不使用, 脳の可塑性, 3つの要素, メカニズム, shaping, task practice | | | |
| 12 | 治療学各論12 CI療法 高野 | | 演習 事例を通して理論について理解を深める。 | | | |
| 13 | 治療学演習1 高野 | | 事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。 | | | |
| 14 | 治療学演習2 高野 | | 事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。 | | | |
| 15 | 治療学演習3 高野 | | 事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。 | | | |
| 期末試験 | 高野 | | 評価方法 | 筆記試験 | 80% | |
| | | | | 受講態度 | 20% | |
| 【教科書】脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)、作 | | | | | | |
| 【参考書】業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第3版(文光堂) | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布。予習課題も提示する。 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | | |
| | | | | 教員室にて | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 2 |
|--|--------------|---------|--|--------|---|---------|
| 薄井俊介 | 病院 11年勤務 | 薄井 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| | | | 【曜日・コマ】 | 前期・月 1 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 |
| 【授業の概要】 障害をもつ人々が主体的に生活できる手段を提供するため、身体機能・精神機能の理解と障害像のイメージを獲得し、ADL能力向上のための知識を得る。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①ADLの項目について理解を深め、疾患と結び付けることができる。 ②ADLの評価について理解し、評価方法の基本を身に付ける。 ③ICFの中の「活動と参加」について理解を深める。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 演習では実習着を使用する。講義ごとに準備物があるので、確認を怠らないこと。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | オリエンテーション | | ADLおよびIADLの概念と種類、「日常生活」、「家庭生活」、「社会生活」について理解する。 | | | |
| 2 | ADLとICF | | 「医学モデル」から「社会モデル」への変遷を学び、ICFの概念について、特に「生活機能」と「背景因子」の相互作用について理解を深める。 | | | |
| 3 | ADLの評価① | | ADL評価における「量的評価」と「質的評価」について理解する。「できるADL」と「しているADL」の違いについて理解する。 | | | |
| 4 | ADLの評価② | | 量的評価として、BIとFIMの概要と評価方法について理解する。IADLの評価項目と、その方法について理解する。 | | | |
| 5 | ADLの評価③ | | 質的評価として、動作分析の基礎を学ぶ。 | | | |
| 6 | ADL各論① | | 脳血管障害を例に、起居、移乗、移動動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 7 | ADL各論② | | 脳血管障害を例に、起居、移乗、移動動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 8 | ADL各論③ | | 脳血管障害を例に、食事動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 9 | ADL各論④ | | 脳血管障害を例に、排泄動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 10 | ADL各論⑤ | | 脳血管障害を例に、更衣動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 11 | ADL各論⑤ | | 脳血管障害を例に、整容動作および入浴動作の概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 12 | ADL各論⑥ | | 脳血管障害を例に、コミュニケーションおよびIADLの概念や特徴を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 13 | ADL各論⑦ | | 調理を例にして、家事動作の特徴や重要性を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 14 | ADL各論⑧ | | 脳血管障害における家事動作の特徴や重要性を理解する。遂行に必要な身体機能および精神機能について理解する。 | | | |
| 15 | 自助具と生活支援機器 | | 自助具や補装具、生活支援機器について、これまでの講義内容との関連を理解する。自助具の作成を通して、これまで得た知識の理解を深める。 | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | | 評価方法 | 筆記試験 | 80% | |
| | | | | 課題の達成度 | 20% | |
| 【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL (羊土社) | | | | | | |
| 【参考書】1年次に購入した図書から指定する。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義までの課題を提示するので、各自予習復習を行うこと。 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて | (木曜日以外) |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 2 |
|--|---------------|---------|--|--------|---|---------|
| 薄井俊介 | 病院 11年勤務 | 薄井 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| | | | 【曜日・コマ】 | 後期・月 3 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 |
| 【授業の概要】 障害をもつ人々が主体的に生活できる手段を提供するため、身体機能・精神機能の理解と障害像のイメージを獲得し、ADL能力向上のための知識を得る。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①ADLの項目について理解を深め、疾患と結び付けることができる。 ②ADLの評価について理解し、評価方法の基本を身に付ける。 ③ICFの中の「活動と参加」について理解を深める。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 演習では実習着を使用する。講義ごとに準備物があるので、確認を怠らないこと。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | ADL評価法の確認① | | 脳血管障害の症例検討を行い、BI・FIMの採点について確認する。 | | | |
| 2 | ADL評価法の確認② | | 脳血管障害の症例検討を行い、BI・FIMの採点について確認する。 | | | |
| 3 | 脊髄損傷のADL① | | 脊髄損傷の病態像および損傷高位による麻痺の分類について確認し、残存機能を活用した動作の獲得について理解する。 | | | |
| 4 | 脊髄損傷のADL② | | 四肢麻痺患者の移動を中心に演習を行い、損傷高位に合わせた動作の獲得と訓練について具体的方法を学ぶ。 | | | |
| 5 | パーキンソン病のADL① | | パーキンソン病の病態像について確認し、歩行を中心にその特徴と具体的訓練について学ぶ。 | | | |
| 6 | パーキンソン病のADL② | | パーキンソン病患者の歩行以外の諸活動について、その特徴と具体的な訓練・支援について学ぶ。 | | | |
| 7 | 神経筋疾患のADL① | | 神経内科における諸疾患のADL上の特徴を理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 8 | 神経筋疾患のADL② | | 神経内科における諸疾患のADL上の特徴を理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 9 | 認知症・統合失調症のADL | | 認知症および統合失調症患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援などについて学ぶ。 | | | |
| 10 | 呼吸器疾患・心疾患のADL | | 呼吸器疾患および心疾患患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 11 | 関節リウマチのADL① | | 関節リウマチのADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 12 | 関節リウマチのADL② | | 関節リウマチのADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 13 | 人工股関節置換術後のADL | | 人工股関節置換術を施行された患者のADL上の特徴について理解し、具体的な支援や訓練方法について学ぶ。 | | | |
| 14 | 切断患者のADL | | 四肢の切断患者のADL上の特徴について理解し、義手や義足の役割やADLの工夫などについて理解する。 | | | |
| 15 | 各疾患の特徴の確認 | | 講義で扱った各疾患のADLの特性について確認し、理解を深める。 | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | | 評価方法 | 筆記試験 | 80% | |
| | | | | 課題の達成度 | 20% | |
| 【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL (羊土社) | | | | | | |
| 【参考書】1年次に購入した図書から指定する。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 次回講義までの課題を提示するので、各自予習復習を行うこと。 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて | (木曜日以外) |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 |
|---|------------------------|---|---------|--------|--|---------|
| 富永孝之 ¹⁾ 、吉田久美 ²⁾ | | 富永 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)病院・介護老人 保健施設 13年勤務 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 前期・金 3 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 2 |
| 【授業の概要】 | | | | | 【受講して得られる力】 | |
| ①作業とはなにか、作業療法士はなぜ作業を用いるのかについて理解する。 ②作業活動の基本的知識と工程を理解し、作業分析ができるようになる。 | | | | | 前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 | | | | | | |
| ①人を「作業的存在」としてとらえる視点を養うことができる。 ②作業活動が人の身体的側面や精神的側面にどのように影響するかを考察できる。 ③作業活動に必要な道具・材料を選出し使用することができる。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 | | 作業療法士がなぜ「作業」を用いるのかを学びます。作業療法の核を学ぶので意識して臨んでください。 | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | | |
| 1 | 「作業」とは？ PEOモデル 富永 | 作業における「作業」の定義を述べるができる。 ひと一環境一作業モデル(PEOモデル)について理解できる。 | | | | |
| 2 | 「作業」の意味や価値とは？ 富永 | 個々人における「作業」の意味や価値についてその個人の主観的視点に立つ重要性が理解できる。 「作業」の持つ空間的・時間的・社会的・文化的側面が理解できる。 | | | | |
| 3 | エコクラフト① 富永 | エコクラフトの作品作りを通して、作業の分析を行い、作業分析の実際を理解する。 | | | | |
| 4 | エコクラフト② 富永 | エコクラフトの作品作りを通して、作業の分析を行い、作業分析の実際を理解する。 | | | | |
| 5 | 作業分析① 富永 | 作業分析の方法の概略を理解することができる。 | | | | |
| 6 | 作業分析① 富永 | 作業分析の方法の概略を理解することができる。 | | | | |
| 7 | 作業分析③(自助具) 富永 | 自助具について、実際の作業に使用することで、分析手法の理解を深める。 | | | | |
| 8 | 革細工①(説明・デザイン) 富永 | 革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。 | | | | |
| 9 | 革細工②(刻印・着色) 富永 | 革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。 | | | | |
| 10 | 革細工③(刻印・着色) 富永 | 革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。 | | | | |
| 11 | 革細工④(仕上げ作業) 富永 | 革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。 | | | | |
| 12 | 籐細工①(説明・コースター作り) 富永 | 籐細工でコースター作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。 | | | | |
| 13 | 籐細工②(コースター・籠作り) 富永 | 籐細工でコースターと籠を作る。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。 | | | | |
| 14 | 籐細工③(籠作り) 富永 | 籐細工で籠作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。 | | | | |
| 15 | 籐細工④(籠作り) 富永 | 籐細工で籠作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。 | | | | |
| 期末試験 | 実施しない | 評価方法 | レポート | 60% | 受講態度 | 10% |
| | | | 課題の達成度 | 30% | | |
| 【教科書】①作業活動実習マニュアル第2版 医歯薬出版 ②標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院 | | | | | | |
| 【参考書】参考書については、講義の中で随時紹介します。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて | 午後または、放課後 | |

| | | | | | | |
|---|-----------------------------|---------|---|------------|--|-----------|
| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 |
| 富永孝之 ¹⁾ 、吉田久美 ²⁾ | | 富永 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)病院・介護老人保健施設 13年勤務 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 後期・水 2 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 2 |
| 【授業の概要】 | | | | | 【受講して得られる力】 | |
| ①作業とはなにか、作業療法士はなぜ作業を用いるのかについて理解する。 ②作業活動の基本的知識と工程を理解し、作業分析ができるようになる。 | | | | | 前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 | | | | | | |
| ①人を「作業的存在」としてとらえる視点を養うことができる。 ②作業活動が人の身体的側面や精神的側面にどのように影響するかを考察できる。 ③作業活動に必要な道具・材料を選出し使用することができる。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 作業療法士がなぜ「作業」を用いるのかを学びます。作業療法の核を学ぶので意識して臨んでください。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | 木工①(オリエンテーション・作品の設計・けがき) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 2 | 木工②(作品作り:木材を測る。木材を切る。) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 3 | 木工③(作品作り:木材を切る。ヤスリをかける。) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 4 | 木工④(作品作り:模様をつける。組み立てる。) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 5 | 木工⑤(作品作り:組み立てる。色を付ける。) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 6 | 木工⑥(作品作り:ニスを塗る。) 富永 | | 木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。 | | | |
| 7 | 木工⑦(木材などを利用しての自助具を作る。) 富永 | | グループで、生活に便利な自助具を考える。病気や障害者の生活を知り、簡単な工夫で、便利な道具作りを体験する。 | | | |
| 8 | 料理①(おにぎりと浅漬け) 富永 | | 家事活動の中の料理について、計画や準備、片付けについての作業過程や道具、安全管理を知り、その治療効果を学ぶ。 | | | |
| 9 | 料理②(自助具で工夫した、お弁当作り) 富永 | | 片手で洗う、切る、煮る、炒める、食べる、食器を洗うなどの過程において自助具の使用、工夫によって、簡単に調理動作などができることを学ぶ。 | | | |
| 10 | レク活動①(グループ分け、活動計画の作成) 富永 | | グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。 | | | |
| 11 | レク活動②(活動の分析など) 富永 | | グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。 | | | |
| 12 | レク活動③(レク活動の発表) 富永 | | グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。 | | | |
| 13 | 健康と作業活動についてのグループワーク① 富永 | | WHOの定義する「健康」への理解を深め、作業活動が個人の「健康」にどのように寄与しているかについて理解できる。 | | | |
| 14 | 健康と作業活動についてのグループワーク② 富永 | | WHOの定義する「健康」への理解を深め、作業活動が個人の「健康」にどのように寄与しているかについて理解できる。 | | | |
| 15 | 健康と作業活動についてのグループワーク③ 富永 | | 「健康」と「作業活動」の関係についてグループ発表を行う。 | | | |
| 期末試験 | 実施しない | | 評価方法 | レポート 60% | 受講態度 | 10% |
| | | | | 課題の達成度 30% | | |
| 【教科書】①作業活動実習マニュアル第2版 医歯薬出版 ②標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院 | | | | | | |
| 【参考書】参考書については、講義の中で随時紹介します。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて | 午後または、放課後 |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 |
|---|----------------------------------|---|--------------|--------|---|---------|
| 田中 絹代 ¹⁾ ・吉田 久美 ²⁾ | | 田中 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)肢体不自由児施設22年勤務(内JICA4年) 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 前期・木 1 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 |
| 【授業の概要】 発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する。 ②対象疾患別に発達期領域の作業療法における具体的な「評価」と「治療的アプローチ」について理解する。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 人間発達学, 小児科学概論の復習して取り組んでください。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | | |
| 1 | 発達障害領域の作業療法概論 田中 | 発達障害の定義, 対象疾患, チームアプローチについて理解する。 発達障害領域の作業療法評価の概要と流れを理解する。 | | | | |
| 2 | 作業療法評価① 田中・吉田 | 小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し, 観察場面での評価に活用できる (ADL関連行為を中心にまとめる) | | | | |
| 3 | 作業療法評価② 田中・吉田 | 小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し, 観察場面での評価に活用できる(学業関連行為を中心にまとめる) | | | | |
| 4 | 作業療法評価③ 田中・吉田 | 発達スクリーニングテスト(遠城寺式など)を理解し, 実施できる | | | | |
| 5 | 作業療法評価④ 田中・吉田 | 感覚統合機能検査(J-MAP, JSI-Rなど)を理解し, 実施できる。 | | | | |
| 6 | 作業療法評価⑤ 田中・吉田 | 小児領域のADL評価(Wee FIM,PEDIなど)を理解し, 実施できる | | | | |
| 7 | 治療各論③ 田中 | 神経発達学的治療アプローチを理解し, 運動面へのOT介入を実施できる。 感覚統合理論を理解し, 感覚運動・認知面へのOT介入を実施できる | | | | |
| 8 | 治療各論④ 吉田 | 応用行動分析とSSTを理解し, コミュニケーションや社会面へのOT介入を理解する | | | | |
| 9 | 治療各論⑤ 田中 | 自助具や座位保持装置等について理解し, 生活面へのOT介入を理解する 育児・家族支援や社会参加支援の原則を理解し, OT介入を理解する | | | | |
| 10 | 作業療法実践① (事例検討1) 身体障害児・知的障害 | 身体障害児(デュシャンヌ型筋ジストロフィー, 分娩麻痺, 二分脊椎, 先天奇形など)や知的障害児(ダウン症など)作業療法士の関わることの多い疾患・障害の特徴を踏まえ, 模擬患者を用い, 評価, 治療プログラム立案, 実施の一連の流れについて理解し, 実施することができる。(ADLを中心にプログラム立案・実施する) | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 13 | | | | | | |
| 14 | | | | | | |
| 15 | 前期のまとめ | 評価や治療の原則, 身体障害児のOT介入の実際について説明することができる。 | | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | 評価方法 | 筆記試験 | 60% | 受講態度 | 10% |
| | | | 課題の達成度 | 30% | | |
| 【教科書】ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」(第2版) メディカルビュー | | | | | | |
| 【参考書】「発達障害と作業療法 基礎編」(第2版) 三輪書店, 「発達障害と作業療法 実践編」(第2版) 三輪書店 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループワークのまとめ | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | 担当教員 | 【質問方法】 教員室にて | | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 |
|---|---------------------------------|--|---------|-------------|---|---------|
| 田中 絹代 ¹⁾ ・吉田 久美 ²⁾ | | 田中 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)肢体不自由児施設22年勤務(内JICA4年) 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 後期・月3 後期・金2 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 |
| 【授業の概要】 発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する。 ②対象疾患別に発達期領域の作業療法における具体的な「評価」と「治療的アプローチ」について理解する。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 人間発達学, 小児科学概論の復習して取り組んでください。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | | |
| 1 | 前期の振り返り | 発達障害作業療法の評価、治療理論について振り返り、説明できる。 | | | | |
| 2 | 作業療法実践② (事例検討2) 脳性麻痺・重症心身 | 脳性麻痺・重症心身の特徴をふまえ、模擬患者を用い、評価、治療プログラム立案、実施の一連の流れについて理解し、実施することができる。(ADLを中心にプログラム立案・実施する) | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | 作業療法実践③ (事例検討3) 発達障害 | 発達障害(自閉スペクトラム症, ADHD, 学習障害など)の特徴を理解し、作業療法評価・立案・アプローチについて理解し、実施することができる。(就園・就学支援を中心にプログラム立案・実施する) | | | | |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | グループ発表・質疑応答を通して理解を深める | | | | | |
| 13 | 地域・小規模通園施設での作業療法 | 地域・小規模通園施設で働くために必要な評価や介入について理解する事例検討で得られた評価・実施の視点を地域・小規模施設に援用できる。 | | | | |
| 14 | 特別支援教育での作業療法 | 特別支援教育で働くために必要な評価や介入について理解する事例検討で得られた評価・実施の視点を特別支援教育に援用できる。 | | | | |
| 15 | 後期のまとめ | 発達障害領域の評価、治療プログラムについて説明できる | | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | 評価方法 | 筆記試験 | 70% | | |
| | | | 課題の達成度 | 30% | | |
| 【教科書】ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」(第2版)メディカルビュー | | | | | | |
| 【参考書】「発達障害と作業療法 基礎編」(第2版)三輪書店、「発達障害と作業療法 実践編」(第2版)三輪書店 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループワークのまとめ | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | 担当教員 | 【質問方法】 | 教員室にて | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療学科 | 【学年】 | 3 |
|--|--------------------|---------|---|--------|--|---------|
| 吉田 久美 | 病院 13年勤務 | 吉田 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| | | | 【曜日・コマ】 | 前期・火 2 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 2 |
| 【授業の概要】 作業療法評価計画・実施・結果の解釈・治療計画立案に向け、疾患や障害に応じた評価計画・治療・計画立案ができるようになります。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 創造的思考力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①疾患・障害に応じた評価計画の立案ができる。 ②評価結果の統合と解釈ができ、論理的に説明できる。 ③疾患・障害、その人の作業文脈を取り入れた治療計画の立案ができる。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 本講義はactive learnig方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するため積極性が重要です。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | 臨床における評価の意義 吉田 | | 臨床における作業療法の意義と解釈の仕方の概略が理解できる。 ICF(国際生活機能分類)について理解できる。 | | | |
| 2 | 作業療法評価:情報収集 吉田 | | 作業療法に必要な情報の種類とその入手手段について理解できる。 得られた情報についての解釈過程を理解できる。 | | | |
| 3 | 作業療法評価:情報収集 吉田 | | 作業療法に必要な情報の種類とその入手手段について理解できる。 得られた情報についての解釈過程を理解できる。 | | | |
| 4 | 作業療法評価:観察演習 吉田 | | 観察評価の要点を確認し、実際の事例を観察し解釈を行います。身体障害の事例と精神障害の事例についてポイントの違いを理解する。 | | | |
| 5 | 作業療法評価:観察演習 吉田 | | 観察評価の要点を確認し、実際の事例を観察し解釈を行います。身体障害の事例と精神障害の事例についてポイントの違いを理解する。 | | | |
| 6 | 作業療法評価:面接 吉田 | | 作業療法評価における面接の形態・方法・意義が理解できる。面接した内容の記録および解釈ができる。 | | | |
| 7 | 作業療法評価:面接 演習 吉田 | | 事例を想定した面接演習を行い、面接実施に必要な技術を身につける。 | | | |
| 8 | 評価計画立案 吉田 | | 評価計画を立案する意義が理解できる。評価計画に至る思考過程や具体的な内容が理解できる。 | | | |
| 9 | 評価計画立案 吉田 | | 評価計画を立案する意義が理解できる。評価計画に至る思考過程や具体的な内容が理解できる。 | | | |
| 10 | 評価計画立案:事例① 吉田 | | 事例を通して作業療法評価結果を解釈できる。 | | | |
| 11 | 評価計画立案:事例② 吉田 | | 事例を通して解釈した結果を考察できる。 | | | |
| 12 | 評価計画立案:事例③ 吉田 | | 作業療法評価で得られたデータについて統合と解釈ができる。 | | | |
| 13 | 統合と解釈の仕方 吉田 | | 作業療法評価で得られたデータの取捨選択、作業を土台とした焦点化について理解できる。 | | | |
| 14 | 記録作成の意義 吉田 | | 記録作成の意義や要点について理解できる。SOAP形式の記録方法を理解し自己修正できるようになる。 | | | |
| 15 | 治療計画立案 吉田 | | 作業療法評価に基づくプログラムの立案を学びプログラム実施に必要な内容を具体的に計画できる。 | | | |
| 期末試験 | レポート 吉田 | 評価方法 | 課題の達成度 | 30% | レポート | 60% |
| | | | 受講態度 | 10% | | |
| 【教科書】特に指定しません。 | | | | | | |
| 【参考書】講義時に随時紹介します。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 評価計画立案や疾患・障害の基礎項目の確認など毎回レポート課題があります | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 担当教員 | | | 【質問方法】 教員室にて | | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療学科 | 【学年】 | 3 |
|--|-----------------------|---------|--|-------------|--|---------|
| 吉田 久美 | 病院 13年勤務 | 吉田 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| | | | 【曜日・コマ】 | 後期月・2 後期水・3 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 2 |
| 【授業の概要】 作業療法評価計画・実施・結果の解釈・治療計画立案に向け、疾患や障害に応じた評価計画・治療・計画立案ができるようになります。 | | | | | 【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 創造的思考力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①疾患・障害に応じた評価計画の立案ができる。 ②評価結果の統合と解釈ができ、論理的に説明できる。 ③疾患・障害、その人の作業文脈を取り入れた治療計画の立案ができる。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 本講義はactive learnig方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するため積極性が重要です。 | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | |
| 1 | 治療計画立案演習:脳血管障害① 吉田 | | 脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。 | | | |
| 2 | 治療計画立案演習:脳血管障害② 吉田 | | 脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。 | | | |
| 3 | 治療計画立案演習:脳血管障害③ 吉田 | | 脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。 | | | |
| 4 | 治療計画立案演習:脳血管障害④ 吉田 | | 脳血管障害事例の治療計画についてグループごとに報告を実施する。ディスカッションを受けて計画の修正や内容の理解を深める。 | | | |
| 5 | 治療計画立案演習:担当事例① 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。 | | | |
| 6 | 治療計画立案演習:担当事例② 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。 | | | |
| 7 | 治療計画立案演習:報告会 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPおよび治療計画を発表、共有、ディスカッションすることで理解を深めることができる。 | | | |
| 8 | 治療計画立案演習:担当事例③ 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。 | | | |
| 9 | 治療計画立案演習:担当事例④ 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。 | | | |
| 10 | 治療計画立案演習:報告会 吉田 | | 評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPおよび治療計画を発表、共有、ディスカッションすることで理解を深めることができる。 | | | |
| 11 | 評価計画立案演習:脊髄損傷① 吉田 | | 脊髄損傷事例について事例に沿った評価計画を立案することができる。 | | | |
| 12 | 評価計画立案演習:脊髄損傷② 吉田 | | 脊髄損傷事例について評価結果を基にMTDLPでの要点整理、焦点化、統合と解釈ができる。 | | | |
| 13 | 評価計画立案演習:脊髄損傷③ 吉田 | | 脊髄損傷事例について基本的プログラムおよび応用的プログラム立案ができる。 | | | |
| 14 | 評価計画立案演習:脊髄損傷④ 吉田 | | 脊髄損傷事例について立案した基本的プログラムおよび応用的プログラムを共有し修正できる。 | | | |
| 15 | 臨床作業療法のまとめ | | 臨床で作業療法を実践するうえで重要な要素を振り返り再確認する。よりよい臨床実践のために必要な取り組みについて理解できる。 | | | |
| 期末試験 | レポート 吉田 | 評価方法 | 課題の達成度 | 30% | レポート | 60% |
| | | | 受講態度 | 10% | | |
| 【教科書】特に指定しません。 | | | | | | |
| 【参考書】講義時に随時紹介します。 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 治療計画立案や治療報告のパワーポイント作成など毎回レポート課題があります。 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | | 【質問方法】 教員室にて | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 |
|--|----------------------------------|--|---------|--------|--|---------|
| 羽川 孝幸 ¹⁾ 、吉田 久美 ²⁾ | | 羽川 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) |
| 1)病院7年勤務 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 前期・金 2 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 |
| 【授業の概要】 精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について整理する。 | | | | | 【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを理解する。 ②精神科作業療法の評価と実践について理解する。 ③関連する精神科リハビリテーションについて理解する。 | | | | | | |
| 【履修上の注意】 学習目標を達成するための自主学習に取り組むこと | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | | |
| 1 | 統合失調症の理解と作業療法 1 羽川 | 疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | |
| 2 | 統合失調症の理解と作業療法 2 羽川 | 疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | |
| 3 | 統合失調症の理解と作業療法 3 羽川 | 疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | |
| 4 | 評価の視点と解釈 1 羽川 | 対象者らしい生活を踏まえた評価の解釈について理解する。 臨床実践の根拠を明確にすることの重要性を理解する。 | | | | |
| 5 | 評価の視点と解釈 2 羽川 | 対象者らしい生活を踏まえた評価の解釈について理解する。 臨床実践の根拠を明確にすることの重要性を理解する。 | | | | |
| 6 | 作業と環境を治療に用いる 吉田 | 疾患の特性と病期に合わせた作業と環境のアセスメントについて理解する。 | | | | |
| 7 | プログラムの考え方 吉田 | 観察、面接、検査などの評価に応じた作業療法プログラムの組み立て方について理解する。 | | | | |
| 8 | パラレル作業療法 吉田 | パラレルな作業療法の特徴と効果について理解する。 パラレルな作業療法での意図したかかわりについて理解する。 | | | | |
| 9 | 集団作業活動 羽川 | 集団作業活動の特徴と効果について理解する。 集団作業活動での意図したかかわりについて理解する。 | | | | |
| 10 | 認知リハビリテーション(NEAR、MCT、SCIT) 羽川 | 神経認知の訓練を行うNEAR、メタ認知の訓練を行うMCT、社会的認知の訓練を行うSCITについて理解する。 | | | | |
| 11 | 認知行動療法 吉田 | 認知行動療法について、代表的なうつ病の認知療法とコラム法、そしてSSTから理解する。 | | | | |
| 12 | 生活技能訓練(SST)演習 吉田 | 社会学習理論について理解し、社会生活技能に介入する。 SSTについて理解する。 | | | | |
| 13 | 心理教育と家族心理教育 羽川 | 教育モデルによる心理教育の現状について理解する。 EBPとNBPをつなぐ技術について考察する。 | | | | |
| 14 | 元気回復行動プランとピアカウンセリング 羽川 | セルフコントロール・セルフヘルプとして代表的なWRAPと、当事者によるピアカウンセリングについて理解する。 | | | | |
| 15 | べてるの家と当事者研究 羽川 | ソーシャルキャピタルの視点から、べてるの家というコミュニティと当事者研究という手法を理解する。 | | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | 評価方法 | 筆記試験 | 100% | | |
| 【教科書】精神障害と作業療法(三輪書店)／生活を支援する精神障害作業療法 第2版 | | | | | | |
| 【参考書】図説 精神科リハビリテーション／はじめての認知療法／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳 | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 担当教員 | | | | | | |
| 【質問方法】 教員室にて | | | | | | |

| 【担当教員】 | | 【科目責任者】 | 【対象学科】 | 作業療法学科 | 【学年】 | 3 | |
|--|----------------------------|--|---------|----------|--|---------|-------|
| 羽川 孝幸 ¹⁾ 、吉田 久美 ²⁾ | | 羽川 | 【開講時期】 | 通年 | 【回数(時間)】 | 30(60) | |
| 1)病院7年勤務 2)病院13年勤務 | | | 【曜日・コマ】 | 後期・木 1・2 | 【授業形態・単位】 | 講義・演習 3 | |
| 【授業の概要】 精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について整理する。 | | | | | 【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 | | |
| 【学習目標(到達目標)】 ①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを理解する。 ②精神科作業療法の評価と実践について理解する。 ③関連する精神科リハビリテーションについて理解する。 | | | | | | | |
| 【履修上の注意】 学習目標を達成するための自主学習に取り組むこと | | | | | | | |
| 回数 | 授業のテーマ(担当教員) | 授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法) | | | | | |
| 1 | 気分障害の理解と作業療法 1 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 2 | 気分障害の理解と作業療法 2 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 リワークデイケアについて理解する。 | | | | | |
| 3 | 神経症性障害の理解と作業療法 1 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 4 | 神経症性障害の理解と作業療法 2 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 5 | パーソナリティ障害の理解と作業療法 1 吉田 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 6 | パーソナリティ障害の理解と作業療法 2 吉田 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 7 | てんかんの理解と作業療法 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 8 | 知的障害の理解と作業療法 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 9 | 摂食障害の理解と作業療法 吉田 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 10 | 依存性疾患の理解と作業療法 羽川 | 疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 | | | | | |
| 11 | 入院医療の作業療法 吉田 | 入院医療における対象者の現状と作業療法を理解する。 | | | | | |
| 12 | 地域医療の作業療法 羽川 | 地域医療における対象者の現状と作業療法を理解する。 | | | | | |
| 13 | 精神科作業療法における実際 (事例検討:入院) | 精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する。 | | | | | |
| 14 | 精神科作業療法における実際 (事例検討:地域) | 精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する。 | | | | | |
| 15 | 精神科作業療法における実際 (まとめ) | 精神科作業療法介入の入院から地域支援における役割およびライフステージに応じた介入について理解する。 | | | | | |
| 期末試験 | 筆記試験 | 評価方法 | 筆記試験 | 100% | | | |
| 【教科書】精神障害と作業療法(三輪書店)／生活を支援する精神障害作業療法 第2版 | | | | | | | |
| 【参考書】図説 精神科リハビリテーション／はじめての認知療法／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳 | | | | | | | |
| 【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 | | | | | | | |
| 【本講義に関する質問先】 | | | 担当教員 | 【質問方法】 | | | 教員室にて |